

2021

ライブラリー

目 次

いろいろな「図書館」に行ってみよう	小笠原 祐子… 3
私のおすすめ本	兒玉 公一郎… 5
私のおすすめ本	得田 雅章… 8
私のおすすめの本	桑山 啓子…12
私のおススメの本	田中 菜採…15
図書館炎上	渡 邊 隼…18
私のおすすめ本	江上 弘幸…24
「私のおすすめ本」	武 藤 誠…26
沖縄で考えさせられた本	脇本 利紀…28
令和3年度のまとめ	30
令和3年度 図書館の入館について（第1版）	33
令和3年度 図書館の入館について（第2版）	34
令和3年度 図書の郵送による貸出について	35

いろいろな「図書館」に行ってみよう

日本大学図書館 経済学部分館長

小笠原祐子 教授

(社会学)

皆さんは、何枚の図書カードをお持ちですか？

私は、大学の図書館を使用できる教職員証に加えて、居住地の市立図書館のカードを1枚と近隣の地区センターの図書貸出カードを4枚持っています。市内には中央図書館に加えて17の地域図書館があります。1998年に図書館ホームページが開設され、インターネットによる蔵書検索サービスが開始され、さらに2005年にはインターネットでの予約サービスが始まり、市立図書館の使い勝手が格段によくなりました。かつて利用できる蔵書は、最寄りの図書館のものに実質的に限られていましたが、18館すべての蔵書をネットで予約して取り寄せることができるようになったからです。2019年度図書館資料統計によれば、最寄りの図書館の個人貸出用一般書は、105,482冊ですが、18館全体では3,083,903冊になります。実に30倍の冊数の蔵書を利用できるようになりました。

私の研究分野である社会科学の分野に限っても市全体で468,506冊あり、このうち9,592冊は外国語資料です。研究に資する本を市立図書館で見つけることも少なくありません。1枚のカードで6冊まで予約できるので、常時、6冊の本を予約しています。現在予約を入れている本のうちの1冊は、Kazuo Ishiguroのノーベル文学賞受賞第一作となる *Klara and the Sun* です。嬉しいことに、原著の英語の本も1冊だけですが、所蔵されていました。

社会科学系の本や英語で書かれた本は、予約を入れると、たいていの場合さほど待たずに入手できますが、人気作家の新刊となるとそうはいきません。例えば、2021年度上半期ベストセラー総合1位となった宇佐見りん著『*推し、燃ゆ*』は、市の図書館全館で47冊もの蔵書がありますが、2021年6月5日現在の予約数は1,008人です。1人の利用者が2週間借り出すと想定すると、実際に読めるまでに約10ヶ月も待たなければならない計算になります。そういうときに活躍するのが地区センターの図書コーナーです。地区センターに併設されている図書コーナーは、図書館に比べるとはるかに規模が小さく、比較的大きい2駅先にある地区センターの蔵書でも約28,000冊しかありません。図書館とは比べものにならない規模です。しかし利用者が近隣の人に限定されているので、人気のある新刊でも予約数はそれほど多くなく、ほとんどの場合、市立図書館より早く入手することができます。

さらに地区センターは、市立図書館の取り次ぎサービスもしてくれるので、とても便利です。私の場合、最寄りの市立図書館は2駅先にしかありませんが、一番近い地区センターは徒歩5分のところにあります。なぜ4つの地区センターの図書貸出カードを持っているのかと言えば、予算の限られたそれぞれの地区センターが購入する本が異なるからです。上記の『[推し、燃ゆ](#)』はむろんのこと、朝井リョウ著『[正欲](#)』や加藤シゲアキ著『[オルタナート](#)』は、地区センターに予約を入れました。各地区センターの月ごとの新着本をチェックするのが、私のちょっとした楽しみになっています。

コロナ感染症の拡大を受けて多くの授業がオンラインとなり、学生の皆さんが大学に来る機会が減っていることと思います。残念ながら必然的に経済学部学分館を利用する機会も減少傾向にあるでしょう。このようなときこそ、地域の図書館を利用してみるのもよいのではないのでしょうか。まだ持っていない方は、ぜひ、図書館カードをつくることから始めてみてください。

著者自己紹介

小笠原 祐子（おがさわら ゆうこ）

シカゴ大学大学院社会学研究科博士課程修了。Ph. D.（社会学）。専門は家族社会学，労働社会学，ジェンダー論。最近の主な論文に “[The Slow Decline of the Male-breadwinner Family Model in Contemporary Japan and Its Ramifications for Men’s Lives](#),” (2020) *Japan Labor Issues* 4, no. 20: 15-28.

私のおすすめ本

兒玉公一郎 教授
(経営学・現代企業論)

『アメリカン・マインドの終焉』 アラン・ブルーム著

みすず書房 1988 年

この本はコーネル大学やシカゴ大学の哲学教師であった著者が、アメリカにおける知の変遷と大学の危機について論じた本です。特に、1960 年代にアメリカの大学で吹き荒れた学生運動や当時（80 年代）の大学における現状を独特の言い回しで辛辣に批判しており、本国で（否定的な反応も含め）大きな反響を呼んだ本です。

私事で恐縮ですが、いまからかれこれ四半世紀前に、地方から上京してきたばかりの自分は、正直に白状してしまうと「大学で商売に関する実践的・専門的な how to を手っ取り早く身に着けて、自分で商売をやろう・・・」くらいの軽い感覚で、大学の門をくぐりました。それまでプラトン、アリストテレス、カント、スミス、マルクス、ニーチェ、ウェーバーなどの偉大な思想家の名前は大学受験のための知識として聞き覚えがあっても、はるか昔の遠くの世界に生きた人物に関する断片的な知識が並列状に頭の中に詰め込まれていただけで、その知識が自分にとって何か特別な意味を持っていたわけではありません。当然、彼らが自分の魂に何かを語りかけるということもありませんでした。彼らが先人からどのような影響を受け、どのような問題意識の下で何を考えたのか、なぜそう考えなければならなかったのか、などについて全く知りませんでしたし、知ろうともしていませんでした（すでに大人になった今でもよく解っていないのかもしれませんが）。無知であるがゆえに、そんなものは自分が現実を生きていく上で何の役にも立たないという、学問に対してかなり不遜な態度だったことを今から思い返すと気恥ずかしくなります。

ところが、受験勉強明けのしばしのリハビリ期間を過ごした後、ひょんなことからこの本と出合っしまい、浅はかな自分の認識をすべて喝破されているようで、ハンマーで思い切り頭を叩かれたような強烈な衝撃を受けました。精神的に幼く単細胞であったがゆえに影響されやすかったというのかもしれませんが、この本で言及されている「魂のあこがれ」とはどんなものかと問うたときに、「4 年間しかない大学時代に、将来の仕事に役に立つとかチンケなことで過ごしている場合じゃないぞ」と、大きく方向転換することになりました。その意味で、この本は、現在の、そして大学入学当初に志していた、「専門」である経営学

から自分を遠ざけた本です。にもかかわらず、この本はサラリーマンを辞めて大学院に入り直すときなど、自分が経営学という学問に回帰していく節目節目で、自分の立ち位置を省察するために参照すべき準拠点としての大事な意味を持っているように思います。

『**まかり通る 電力の鬼・松永安左エ門**』小島直記著

東洋経済新報社 2003 年

上述の事情で、大学時代はあまりまじめに経営学の勉強はしていなかったのですが、それでも将来自分はどのようにして身を立てていくべきかという点では、一応人並み程度には頭を悩ませていましたが、商売人の家で育った人間としてビジネスというフィールド以外の選択肢は頭にありませんでした。そのような問題意識で高校生の頃あたりから、自分のロールモデルとなる人物をずっと探していたように思います。

この本は、戦後の電力体制の形成に中心的な役割を果たした松永安左エ門の伝記です。国士と呼ぶにふさわしい松永の波乱万丈の一代記であり、反骨精神に満ちた気概ある実業人のロマンがここにはあります。読んでいて痺れるといいましょうか、血沸き肉躍るというのは、こんな感覚かもしれません。圧倒的にスケールが大きい松永の生き様は現代の感覚では滅茶苦茶だと言われるかもしれませんし、また、あまりの人間的な器の大きさゆえに自分からは仰ぎ見るような存在で、直接的なロールモデルにはなりえないのですが、それでも何かと学ぶところが多いように感じます。近代日本を作り上げてきた、人間的に魅力に富んだ実業家を取り上げることのできるのは経営学の一つの醍醐味かもしれません。

『**男子の本懐**』城山三郎著

新潮社

こちらも伝記になってしまいますが、戦前に総理を務めながら凶弾に倒れた「ライオン宰相」と呼ばれた浜口雄幸の生涯が綴られています。浜口内閣が実施した緊縮財政や金解禁などの経済政策そのものは、最近はあまり評判がよろしくありませんが、それでも浜口の人物面での魅力はどうしても無視できません。著者の城山三郎氏が取り上げる人物は、経済人・政治家を問わず、いずれも気骨ある生き方をした人ばかりです。浜口雄幸もこの例にもれず、学究肌で寡黙でありながらもただひたすらストイックに己の政治的信念を貫く姿が、この本では描かれています。この点においては真反対の極にある自分は、この本の背表紙を見るたびに居住まいを正さねばという気持ちにさせられます。

著者自己紹介

兒玉 公一郎（こだま こういちろう）

74 年宮崎県生まれ。98 年一橋大学商学部卒、全日本空輸(株)勤務後、05 年一橋大学大学院商学研究科経営学修士コース修了、11 年一橋大学大学院博士後期課程修了。博士（商学）。21 年に日本大学経済学部着任。

私のおすすめ本

得田雅章 教授

(マクロ経済学)

『地銀の次世代ビジネスモデル：押し寄せる業界再編の波を乗り越える』大和総研編著

日経 BP 社 2020 年

本書は、最近斜陽産業と揶揄されがちな銀行、特に地域に寄り添う地銀・第二地銀の展望を論じたものである。大和総研の研究者 9 名による共著であり、その大半が 40 代以下の若手である。銀行業という固定観念に縛られない自由な発想で描かれた将来の地銀像には胸躍るものがあった。ただし内容を精査すると、地方が抱える課題とその処方箋を論じている側面が強い。特に第Ⅱ・Ⅳ部にかけて、全頁の半分以上がそうであり、タイトルは「地方創生と地銀」とした方がしっくりきた。構成は全Ⅳ部 19 章であり 300 ページを超えるが、数多くの分かりやすい図表が含まれているので読破にはそう時間を要しないだろう。また、図表の大半が大和総研独自のもので、本文に説明し尽されていない奥深さがある。じっくり観取することで得られる示唆に富んでいる。

SDGs、Society5.0、FinTech、地域金融エコシステム等、次代を象徴するキーワードが並び、全て地銀という装置産業を活用することで地方創生に資する可能性が言及されている。こうした潮流に取り残されるようでは「地域のリスクの傍観者 (iv ページ)」に成り下がり、地銀の地域貢献というレゾンデートルは消滅するという見通しを示している。もっとも、どのキーワードを採ってしても、地銀の自己改革はもとより国による制度改革や地域のステークホルダーの意識改革なしには成し得ないものばかりだ。地域の有り様を正しく分析し、最適な方策を立案するという意味では、本書は「地域における地銀のシンクタンク化」を提唱していると言えよう。

地域が抱える課題や強みを的確に把握し、金融プラットフォームを駆使して従来とは全く違った地銀の次世代ビジネスモデルを生み出すにはどうすればよいか。頭の固いトップ（おそらく高齢者）ダウンでは到底可能とは思えない。デジタルネイティブ世代による柔軟かつスピーディーな思考が求められ、さらに彼らはビジネス環境醸成の過程で、数多くの同・異業種のビジネスパーソンや地域住民の意識改革を促していかなければならない。そんな改

革をリードし地方創生に資するような可能性が銀行にあると思うと、斜陽産業どころか魅力的な成長産業に思えてならなかった。

本学経済学部卒業生の就職先として金融機関が多いと聞くが、ここ数年はその勢いが削がれているようだ。おそらく、学生もそして読前の私も、銀行の旧態依然のビジネスモデルという固定観念から抜け出せていないように思える。しかしそうした観念は本書で打ち碎かれるだろう。金融機関あるいは地方創生に関わる全ての業種を志望する学生にとって、本書は金言に満ちている。就活面接で志望先の展望を語るうえで、十二分に役立つ一冊となるだろう。

『MMT：現代貨幣理論とは何か』井上智洋著

講談社 2019 年

MMT はその名の通り本来「貨幣」理論であるはずだが、政治的な利用や学界での派閥争いにもみくちやにされた挙句、財政学的定理「自国通貨を有する国は財政破綻できない」や JGP（雇用保障プログラム）といった本質とは異なる方面がフィーチャーされている気がしてならない。

日銀が目標としているインフレ率（2%）に達しないのは、世の中に出回るおカネ「マネーストック」が足りないからであって、それを生み出すエンジンである民間銀行が本来の機能（融資）を果たしていないからだと考えることができる。融資を実行するためのおカネ（預金）が不足しているからだろうか。いや、そんなはずはない。現状、銀行の預貸率は十分に低い。そもそも MMT は預金をアテにせず、日銀がアコモデート（調整）してくれると考える。思考の混乱は、標準的テキストに登場する「本源的預金」なるものを妄信する弊害といえる。「本源的貸出」を提唱すべきなのかもしれない。

こうした考えは、かつて大学院時代に勉強した内生的貨幣供給理論に基づくものだ。これまであまり日の目を見てこなかった理論が、MMT を通じて注目されるのは嬉しく思う。ただし、内生論の中でも比較的新しいストラクチャリズム（p.81）を掘り下げて紹介されなかったのは残念だ。

本書を読み始めてまず感じたのは、段落のあまりの多さである。ほとんどの段落には 2～3 文しか含まれていない。これは Web 文章の特徴ともいえる。若い著者が若者向けにあえて狙った編集なのかもしれない。テンポよく読み進めることができる反面、全 150 頁たら

ずの本書の内容が、より希薄化して感じた。コンパクトにまとめられているが故の満たされなさを感じた方は、ぜひ MMT の第一人者ランダル・レイ著「[MMT 現代貨幣理論入門](#)」を読破してほしい。お腹一杯になること、請け合いだ。

最後に、「主流派・非主流派経済学者は昔から過度にケンカ腰 (p.21)」とあるが、如実にわかるのがアマゾンのレビューである。論敵が、ここまで言うかというくらいに扱き下ろしているのは、読んでいて気持ちの良いものではない。感情的なやり取りは控えたほうが精神衛生上良いだろう。

『ミルトン・フリードマンの日本経済論』柿埜真吾著

PHP 研究所 2019 年

日本経済の、特に金融政策を分析したノーベル経済学賞クラスの研究者には、インタゲ (インフレターゲット) を提唱した P. クルーグマンやマッカラムルールを提唱した B. マッカラムが有名である。一方で、日本経済を頻繁に言及したり政策提言をしたりしてきたにもかかわらず、驚くほど知られていない学者も存在する。本書タイトルになっている M. フリードマンがその一人である。本書は、氏の知られざる日本経済に対する功績を紹介するにとどまらず、存命だったとしたら提唱したであろう金融政策についても思考実験している点がユニークだ。単なる人物評を超え現代政策にも通じる洞察を提供する、経済学部生にとっての良書となるだろう。

少しでもマクロ経済学を勉強してきた学生は、フリードマンと聞くと金融政策の一手段である k%ルール (マネーを一定割合で増やし続ける) を思い浮かべるかもしれない。あるいはさらに研鑽を積んだ者の中には、市場原理主義者や弱者切り捨て (p. 6) といったネガティブなイメージを持っているかもしれない。どんな場合でもそうだが、通り一遍の参照では人の考えや本質は誤解されやすいものだ。事実、多くの経済学者は、氏が主唱するマネタリストの理論と政策、中央銀行のレトリックと実際の行動を混同しているという。あくまで便宜的な政策提言であった k%ルールが、本人の意思に反しフィーチャーされたのは不幸なことだ。

さらに氏は経済学者として著名となったがゆえに、政治や政策実務といった生々しい現場にも関与することになり、そこでの知識人から疎まれ時には攻撃されるという憂き目にもあっている。こうした不幸な状況を知るにつけて、日本においても民主党政権下で経済ア

ドバイザーとなった学者の皆さんに思いを馳せずにはいられなかった。

氏のマネタリズムに基づく分析は、バブル崩壊後の金融政策を的外れと批判し、今でいう量的緩和(QE)を政策提言していた。失われた20年とも30年ともいわれる現状にあって、もし氏の提言を採用していたら、少子高齢化や地方衰退といった目下の危機的現況がどれほど変わっていただろうか。自らの身の回りのことと共に、つくづく考えさせられた。

最後に、これだけ深く氏の業績を分析し洞察をしている著者は、執筆当時まだ学生(大学院博士後期課程)であるという。将来有望な若い研究者が世に出てきたことを頼もしく思う。

著者自己紹介

得田 雅章(とくだ まさあき)

本学部に奉職前は、15年間滋賀大学に在職していました。主な研究内容は、データ分析ツールを用いた金融経済現象の解明です。コロナ禍が収束し、皆さんと自由に対面できる日を心待ちにしています。

私のおすすめの本

桑山啓子 専任講師
(英語)

『完訳 アーサー王物語 (上・下)』サー・トマス・マロリー著 中島邦男[ほか]訳

青山社 1995 年

アーサー王の話を基にした本や映像は数多く出ている。子供向けのものとしてはディズニーの「王様の剣」が有名だし、R. L. グリーンの「アーサー王物語」(岩波少年文庫)やブルフィンチの「アーサー王物語」(角川文庫)も有名である。またアーサー王の話を下地に多くの作家たちが物語を書いている。

「アーサー王物語」の実際のモデルとなったのはブリトン人の王(部族長?)だと言われている、その活躍が伝説化され一度ヨーロッパに輸出された。ヨーロッパで人気の高かった「アーサー王伝説」が逆輸入された形となってイングランドでもいろいろな作品が作られる。中でもサー・トマス・マロリーの「アーサーの死(Le Mort D'Arthur)」が「アーサー王物語」を集大成した形となっている。

この本はキャクストン版ではなく、ウィンチェスター版を訳したものである。長い間キャクストンが印刷したキャクストン版がマロリーの原稿に近いとされ、しかもアーサー王の誕生から死までの1つの話として扱われてきた。しかし偶然ウィンチェスターの僧院の書庫から見つけられた原稿をオックスフォード大学のヴィナバー教授によって我々が読める形となった。そこで分かったことはマロリーがアーサー王の話を1つの物語として書いたのではなく、8つの別の物語を書いたのだということだ。その話の中には有名な「サー・ガーウェンと緑の騎士」「トリスタンとイゾルデ」の話、そして聖杯の探求の話が入っている。何よりも最後の話「報いなき世にも痛ましきアーサーの死の物語」では王妃グウィネヴィアのせいで円卓の騎士の関係が崩れ、更には不義の息子モードレッドと相打ちになり深手を負ってアヴァロンに旅立っていく話は涙なくしては読めない。

現在このコロナのせいで人間関係が希薄になってしまったように思える。この物語を楽しみながら、人が人としてあるべき姿を考え直してみるのもいいかもしれない。

(「アーサー王物語」の話の内容やマロリー等に関しての説明はこの本の下巻巻末の訳者の説明を参考にさせていただいた。)

『**十二夜**』ウィリアム・シェイクスピア著 小田島雄志訳

白水社 1983 年

「十二夜」は「ロミオとジュリエット」、「ハムレット」などと比べてあまり人気がないのか、映像の作品も少ないような気がするし、舞台化されることも少ないような気がする。

この話は双子の兄妹はお互いが嵐で死んでしまったと思いこみ、妹は男装してその土地の公爵に小姓として使え、兄は別の船の船長に助けられて、その人と一緒に妹がいる街にやってくる。ヴァイオラが男装して公爵に仕えたことから、公爵、公爵が思いを寄せる伯爵の娘オリヴィア、ヴァイオラの双子の兄セバスチャン、そして当人のヴァイオラの間で混乱が生じ、恋の大騒動が起きる。最後は問題が解決して 2 組のカップルが出来てめでたし、めでたしとなる。

シェイクスピアの素晴らしいところは人間を大きな目で見て表現しているところだと思う。人間のどうしようもない欠点を道化や道化的名役割を担う人物に笑い飛ばさせたり、また当人の真に迫る独白で言わせたり、本を読んでも映像を見てもすごいと思うのである。

小田島氏の訳は大変読みやすく、しかもシェイクスピアの作品の持ち味を崩さず、面白いセリフは本当に面白く、また真剣な場面では当人と一緒に真剣に悩んでしまうように訳してある。ぜひ、この本を読んで楽しんでもらいたいと思います。

『**高慢と偏見**』ジェイン・オースティン著 阿部知二訳

河出書房新社 1996 年

この小説は 18 世紀イギリスの田舎を舞台にジェントルマン階級のベネット家の人々が織りなす喜劇的な恋物語である。ベネット家の場合、財産は男子が相続することになっていたため母親のベネット夫人は自分の娘たちを少しでもいいところに嫁がせようと必死である。ベネット家の隣の大屋敷にロンドンからビングリー氏が来ると聞くや自分の主人にあいさつに行き、舞踏会に招待してもらえる手はずを整えてほしいと言うがベネット氏は取り合わない。とは言え、こっそりと出かけていき手はずを整えていたので、娘たちはビングリー氏主催の舞踏会に出席できたのである。ビングリー氏は長女のジェインに恋をするのである。ビングリー氏の友人のダーシーはプライドが高すぎて鼻持ちならない人物である。思い込みの激しい次女のエリザベスはダーシーのプライドの高さのためにダーシーのことを嫌ってしまう。最初はプライドが高く、どうしようもないと思えたダーシーがエリザベスに対する恋心で変わっていくのである。原作ではこの変化を楽しむと同時に作者のオースティン

ンの辛口でウィットのきいた意見を話の合間に読んで楽しむことが出来る。

この作品は「ブリジット・ジョーンズの日記」の基になった。「高慢と偏見」を BBC がドラマ化してダーシー役はコリン・ファースであった。コリン・ファースはこの作品のダーシーのイメージが強すぎて 10 年ほど中々仕事がうまくいかなかったそうである。ようやくダーシーのイメージが取れて何とか軌道に乗ったところで再びダーシー役。この二つの作品を映像で見るとともに、秋の夜長をこの原作を読みながらオースティンの世間に対する辛口の見方を楽しむことをお勧めしたい。

著者自己紹介

桑山 啓子（くわやま けいこ）

日本大学文理学部文学研究科博士前期課程修了

専門：英語学（英語史）特に 15 世紀の作品の英文の文体を文法的に研究。

「アーサー王物語」、「源氏物語」を始めとして和洋問わず古いものが好きである。

私のおススメの本

田中菜採 専任講師
(英語)

『タイムライン (上・下)』 マイクル・クライトン著

早川書房 2000 年

この本は世界的に有名な映画『ジュラシック・パーク』の原作者であるマイクル・クライトンが書いた SF 小説で、いわゆる「タイムトラベルもの」です。

歴史学を専門とするアメリカの大学の教授や学生らが、14 世紀のフランスの遺跡を発掘するプロジェクトに参加していたところ、どう考えても不可解なことが起こります。教授はスポンサーの会社と呼ばれて不在で、なかなか帰ってこない... 遺跡ではなぜか教授が 14 世紀から助けを求めるメッセージが... 残された学生、大学院生が教授を救うために会社には押しかけると、本作のタイムマシンである「タイムライン」が知られざるテクノロジーを使ってひそかに完成しており、その恐ろしい弊害も明らかになっていきます。現在に残って「タイムライン」を保守するグループと、過去に向かって教授を救出するグループにそれぞれ分かれるのですが、時間の経過とともに双方がトラブルに見舞われ、手に汗にぎる展開です。またグループのメンバーは歴史学の中でも得意な分野やスキルを持ち、お互いに助け合いますが、一瞬でもタイミングを逃すとメンバーの命が危ういという究極のチームプレーも非常にスリリングです。

「タイムトラベル」を扱う作品では、タイムマシンが存在している世界線で話が進んでいたり、よく分からないけど時空の亀裂 (?) からたまたまタイムスリップできちゃった! という設定が多い気がします。それはそれで楽しいのですが、本作では現実の科学の理論を織り交ぜながらタイムマシンの仕組みを丁寧に説明されるので、本当にその内発明されてもおかしくないのではと思わせる説得力があります。「タイムライン」の技術は本作の出版当時には実現していなかった量子コンピューターを使うという前提で書かれているのですが、現在では徐々に量子コンピューターの実用化が進んでいるようで、ますます現実味を帯びてきました。このように小説を楽しんでいるだけかと思いきや、意外な豆知識がつかまっていて、医師をしていた経歴を持つ作者の科学技術に対する造詣の深さを堪能できます。同じ題名で映画化もされているので、小説とはまた違った雰囲気を楽しめるとと思います。

『ミレニアム ドラゴン・タトゥーの女 (上・下)』 スティーグ・ラーソン著

早川書房 2011 年

スウェーデンのジャーナリストであるスティーグ・ラーソンが執筆した小説で、タイトルにある『ミレニアム』という雑誌の編集者ミカエル・ブルムクヴィストが主人公です。ミカエルも著者と同じジャーナリストなので、主人公の活躍を通して、著者のジャーナリストとしての信条が垣間見ることができます。本作では、登場人物は非常に多く出てきますし、スウェーデン語なので聞き慣れない名前が多いのですが、その中でもリスベット・サランデルというタトゥーとピアスをたくさん身につけた、一風変わった調査員が主人公を支えます。リスベットは女性で、精神病を疑われており、色々な面でいわれのない差別を受けています。ただし訳ありで調査員としての能力はとても高く、これまでの人生で経験した迫害を乗り越えて、全力で自分の仕事を全うしようとしています。彼女たちの奮闘は、予想をはるかに超えていて、思わず応援したくなります。

スウェーデンというと自然豊かで家庭的、スマートな印象がありますが、作中では凄惨な事件がいくつも紹介されます。この小説を読むと、ナチスの影響で醸成された戦後スウェーデンの暗部が少し学べる気がします。

作者のスティーグ・ラーソンは、当初 10 部作の構想で書き始めていたそうですが、3 作目まで書き終えたところで、1 作目（本作）の発行の直前に、残念ながら病気で亡くなってしまいました。3 作目まではスウェーデンや日本を含め、世界中で大変好評を博していたので、他の作家が遺志を引き継ぎ、4 作目以降も同じシリーズ名で執筆しています。1 作が上下巻で翻訳されているので長いかもしれませんが、ジャーナリストの地道な調査によって謎が解明されていくのは圧巻です。さらに、本作の後も話は続くので 2 作目以降も読んでみてください。

『本物の英語力』 鳥飼玖美子

講談社 2016 年

もう 1 冊は私の専門分野に近い内容から紹介します。英語教育や英語学習についてのあれこれを、最近の事例を取り上げながら解説しています。著者の鳥飼玖美子氏は同時通訳者でもあり、また NHK の「ニュースで英会話」という番組に長年携わっていました。そういった事情もあり、本書で取り上げられる英語の具体例も大変リアルなものになっています。

英語に興味のある人は、今後の英語学習のヒントにしてもらいたいと思います。

本書で度々強調されているのは、英語学習で重要なのは「異文化理解」と「英語『で』勉強する」ということです。異文化理解と聞くと、ハロウィーンなど英語圏での文化を思い浮かべることが多いと思いますが、本書では言語も 1 つの文化であると指摘します。英語の文法が日本語と異なるのも文化的背景が異なるからです。そういった、背景を考えながら文法を勉強してみると文法を丸暗記するだけではない英語の面白みに気づくのではないのでしょうか。本書では文法は覚えるのは面倒だが、「英語という言語文化のルール」なのでそれを知ることは英会話でも大いに役立つと述べられています。

次に、英語で勉強するという点です。英語を使えるようになりたいとき、「英語『を』勉強する」のが一般的です。もちろん、それも重要なことではありますが、自分が好き、あるいは得意な分野の内容を、「英語『で』勉強する」ことも有効だと紹介されています。内容は英語で開講されているような経済学関連でも良いでしょうし、自分の趣味に関するものでも良いでしょう。

どちらも厳密に実践するのは難しく感じられるかもしれませんが、本書からヒントを得て自分に合った英語（外国語）学習の方法を見つけてみてください。

図書館炎上

渡邊隼 専任講師

(都市環境論)

このたび「本や図書館に関する文章」というテーマで『ライブラリー』への原稿依頼をいただいて、どのような内容の随筆をしたためたものかと、しばし思い悩んでしまった。書きたいことが見つからなかったからではない。書きたいことがたくさんあって、取捨選択がむずかしかったからである。大学の教員・研究者という職業柄、ご多分にもれず、わたしもまた図書館で過ごす時間、図書館という空間に親しんできたつもりの人間である。太平洋の海原をのぞむ東北の地方都市で過ごした幼少期から高校時代にかけては、自宅からさほど遠くない場所にあった公立図書館で、児童文学や小説、中学生・高校生向けの学術書から大人向けのノンフィクションまで、さまざまな書物を閉館時間になるまで読みふけたものだった。長じて大学に進学し、驚嘆したのは、大学図書館の存在である。それまで慣れ親しんでいた地元の公立図書館や中学・高校の図書館とおなじ「図書館」であるはずなのに、まったく別種の異空間に思われたからである。もちろん、両者は役割が異なるのであるから、単純に比較できないのだけれども、ありとあらゆる知を学問・研究のために蒐集する大学図書館という存在に初めて接し、おどろきとともに大いに魅惑された当時のことは、いまでも記憶のなかで色あせることはない。大学図書館の無数にならぶ書架のもとで時間をわすれて書物をひもといていると、ときに講義への出席など些事に思われ、忘却の彼方へ消え去ってしまうこともしばしばであった。大学図書館に入りびたる学生生活を送ることになったおかげなのかどうか、大学院へ進学し、幸か不幸か、まがりなりにも学問・研究の道へ進むこととなり、図書館とのつきあいも、それまで以上に、深く、永く、濃密に続くことになった。もっとも、職業的研究者となれば、趣味としての読書を楽しむための場所というよりは、どうしても「しごと」をする場所として図書館を利用する機会が多くなる。けれども、地元の小さな図書館で児童文学を読みふけていた小学生のころも、大学図書館の書庫にこもって文献・史資料を調べる職業的研究者となったいまでも、おもしろいことを探し求めたい、もっともっといろいろなことを知りたいという好奇心のありようはまったく変わらないように思えるのだから不思議なものである。

さて、ここまで書き連ねてきてもなお、「なにを書こうか」と逡巡しているのであるが、ここはひとつ、時事的な話題——いまだ収束／終息の見通しがたたないコロナ禍——にひき

つけて図書館を語ってみたい。それがタイトルにかかげた「図書館炎上」である。「図書館炎上」といっても、なにもどこかの図書館が広大なインターネットの銀河系の片隅でよからぬことをやらかし、敵にまわすと恐ろしいが味方につけると頼りないネット民の不評を買った結果として「炎上」した話をしたいわけではない。かつて戦火によって文字どおり「炎上」し、あまたの蔵書を焼失したベルギーのルーヴァン大学（KU Leuven: Katholieke Universiteit Leuven）の図書館を話題にしたいのである。カトリック系の大学として世界最古（1425年創立）のルーヴァン大学は、ベルギー本国のみならず、ヨーロッパの学問・研究の拠点のひとつである。そしてルーヴァン大学の図書館は、かつて二度の「炎上」を経験したことで知られている。一度目の「炎上」は、第一次世界大戦中のドイツ帝国によるものである。1914年のドイツ軍によるベルギー侵攻からほどなくして、ルーヴァン大学図書館は破壊しつくされ、30万冊もの蔵書が焼失した。大戦後、蔵書の多くを失った図書館再建のために、国際連盟の加盟国を中心に世界各国から書物が寄贈された。当時の日本からも渋沢栄一らが中心となり、1万4千冊ほどの貴重書が贈られたという。こうした経緯をへて、1928年、ルーヴァン大学図書館は一度目の「炎上」から復活するに至った。しかしながら、再建から12年後の1940年、第二次世界大戦の戦火にさらされ、ルーヴァン大学図書館はふたたび「炎上」することになった。二度目の「炎上」は、ナチス・ドイツによるものであった。ルーヴァン大学図書館はドイツの二度にわたる侵攻によって「炎上」したのである。二度目の「炎上」は、ルーヴァンの市街地がほとんど無傷であったのに対し、まるで大学図書館のみが標的にされたかのごとき惨状であったという。だが、第二次世界大戦の終結後、国際社会の協力により、図書館はふたたび復活を遂げる。ルーヴァン大学図書館の二度の「炎上」をめぐる背景については、ヴォルフガング・シヴェルブシュ（福本義憲訳）による好著、その名も『[図書館炎上](#)』に詳しい（Schivelbusch 1988=1992）。

世界がコロナ禍にみまわれる少しばかり前に、ルーヴァン大学図書館を訪れる機会があった。知人のドイツ人研究者に誘われ、ルーヴァン大学で開催された国際会議に参加した2018年2月のことである。首都ブリュッセルから鉄道で40分ほどの場所にあるルーヴァンの大学街で、日中は会議に参加し、終わるとそのまま大学近くのパブに流れ、ベルギー・ビールを飲みながら諸外国の参加者と密になって研究談義に花を咲かせた冬の夜も、コロナ禍のいまとなつては、はるか遠い昔のできごとのようである。滞在中、幸いなことに大学図書館を見学する機会をえた。次頁の写真は、大学図書館の外観と内部の様子である。



(写真はすべて筆者撮影)



先述した二度の「炎上」をふくむルーヴアン大学図書館の歴史は、図書館内の展示でたどることができる。上の写真は、ドイツ軍によるルーヴアン侵攻の様子（左上）と大学図書館の一度目の「炎上」の前後を比較した展示（右上）である。



ルーヴアン大学は、ヨーロッパにおける日本研究・東アジア研究の拠点としても知られている。上の写真は、日本をふくむ東アジア諸地域の史資料を所蔵するルーヴアン大学図書館内の東方図書館である。ところで、ルーヴアン大学文学部日本学専攻課程でベルギーにおける日本研究をながらく主導してきたウィリー・F・ヴァンドゥワラ名誉教授は、日本研究のために必要な古書、史資料をもとめて、来日時には必ずといってよいほど神田神保町の古書店街を訪れていたという（大内ほか編 2008）。いうまでもなく神田神保町の古書店街は、

日本大学図書館経済学部分館が所在する神田三崎町にほど近い場所にある。経済学部の図書館が充実しているのは、いまさらわたしが強調するまでもないことであるが、その大学図書館から歩いてすぐの場所に世界一ともいわれる古書店街が立地することは学究にとって大きな特権である。学生のみなさんが大学図書館を利用するさいには、ぜひ神田神保町の古書店街にも（コロナ対策を講じて）足を運んでみることを強くおすすめしたい。

話題をルーヴアン大学図書館にもどそう。かつて二度「炎上」した図書館を訪れたとき、まさかそれから2年後の世界で疫病が大流行し、感染者・死者が多数にのぼり、海外渡航はおろか、国内の移動さえも制限されることになるとは思ってもみなかった。世界のほかの地域と比べ、ヨーロッパ諸国における新型コロナウイルスの感染者数は急速な増加をみせていたが、とりわけベルギーの感染状況がきわめて深刻であると知らせる報道を悲痛な思いで見聞きしていた。国内外の移動のみならず、大学図書館、公共図書館の利用さえもままならない世界の到来は、まったく想像の範疇を超えていた。国際会議への参加、ルーヴアン大学図書館への訪問など、たやすく国境を越えて気のおもむくままに移動できたのも、未知のウイルスの脅威など感じることなく、さまざまな「自由」が保障され、それを享受していたからであると痛感させられた。ルーヴアン大学図書館を訪問したときの、あの凍てつくような寒さと小雪が舞う冬の空を思い出しながら、いささか大げさにいえば、コロナ禍で失われた「自由」の意味するところを考えざるをえなかった。

コロナ禍の現在、いまだ「自由」はさまざまな局面で制約されている。それでもなお、グローバル化ということばを持ち出すまでもなく、ひと、文化、社会の国境を越えた交流が途絶えることはないだろう。前出のヴァンドゥワラ名誉教授をはじめとするルーヴアン大学の日本研究グループは、一度目の「炎上」によって多くの書物を失った大学図書館へ当時の日本から寄贈された貴重書を主題とする書物を編んでおり、2022年に刊行予定であるという（Schmidt et al. 2022）。この書物が刊行されるころまでには、コロナ禍が終息し、ルーヴアン大学図書館を再訪できる日が来ること、そしてまだ訪れたことのない世界中の図書館を自由にめぐることができる日が一日も早く来ることを心から願って筆をおきたい。

〔文献〕

大内田鶴子・熊田俊郎・小山騰・藤田弘夫編, 2008, 『[神田神保町とヘイ・オン・ワイ——古書とまちづくりの比較社会学](#)』東信堂.

Schivelbusch, Wolfgang, 1988, *Die Bibliothek von Löwen: eine Episode aus der Zeit der Weltkriege*, Carl Hanser Verlag. (福本義憲訳, 1992, 『図書館炎上——二つの世界大戦とルーヴラン大学図書館』法政大学出版局.)

Schmidt, Jan, Willy Vande Walle, and Eline Mennens eds., 2022 (forthcoming), *Japan's Book Donation to the University of Louvain: Japanese Cultural Identity and Modernity in the 1920s*, Leuven University Press.

著者自己紹介

渡邊 隼 (わたなべ しゅん)

宮城県生まれ。専門は社会学、都市地域研究。博士 (社会学)。日本学術振興会特別研究員などを経て、2021 年度より日本大学経済学部専任講師。経済学部では、都市環境論、社会学などの授業を担当。主な論文に『戦後日本における共同体の構想と現実』（東京大学大学院人文社会系研究科博士学位論文, 2020 年）など。主な訳書に『[社会問題とは何か](#)』（ジョエル・ベスト著, 共訳, 筑摩書房, 2020 年）など。

私のおすすめ本

江上弘幸 助教
(経済データ分析)

『最高の仕事ができる幸せな職場』 ロン・フリードマン著

日経 BP 2015 年

仕事を快適にできる環境についての科学的なエビデンスが集められた本です。著者の Ron Friedman は心理学者です。最近の経済学は、科学的なエビデンスを提供するという役割が強まっており、そうした点では心理学や公衆衛生、教育学など様々な分野と地続きになっています。最近流行している「行動経済学」という分野の始祖のひとりである、ノーベル経済学賞を受賞したダニエル・カーネマンは、心理学者です。みなさんも、経済学部に入ったからといって、「経済学」の名のついた本ばかりではなく、ぜひ様々な科学の分野の本を手にとってみてください。

この本の面白さは、目次からいくつか印象的な言葉を引用するだけでも、片鱗が伝わると思います。「成功するチームはなぜ多くの失敗をするのか」「家で働くほうが生産性が高い理由」「孤独があなたをダメにする」「友人作りの科学」「強引なリーダーがチームを生産的にできない理由」「高額な報酬は逆効果」「過干渉の親とマイクロマネジメントの共通点」「職場で認められることは昇給よりも嬉しい」「多忙なマネージャーのためのアドバイス」「マネージャーの行動・感情が従業員を方向づける」「面接がうまくいかないのはなぜか」「面接官の心のうち」「就職面接でどうやって嘘をつくか」「面接で何を聞くか」などなど…。

これら論点について、最新の科学的なエビデンスを基に解説しているのが、この本です。みなさんにも身近なトピックはありませんか？もしかしたら、就職面接の話に関心があるかもしれません。世の中あやしいハウツー本であふれています。そういうものにふりまわされず、科学的なエビデンスを参考にしましょう。

もしかしたら、まだ働いていないみなさんはあまり関心がないかもしれません。でもきっと、働くようになったら自分の職場がどれほど自分を幸せにしてくれているか（多くの人は疑問に思っただけ）という論点に、関心が高まると思います。そのとき思い出したら読んでみてください。

貧困問題や環境問題について、ありがちな誤解を解いて、データを基に世界を正しく見る習慣を身につけるための本です。著者のハンス・ロスリングは公衆衛生学者で、「経済発展と農業と貧困と健康のつながり」が専門です。「え、それは経済学者の研究分野では？」と思ったひとはいますか？最近では、経済学以外の分野の研究者が、もともとは経済学者が主に研究していた問題に取り組んでいることが増えています。経済学用語に頼らずに説明がなされるので、読みやすいものが多いです。

みなさんは、「世界はどんどんよくなっている」「世界はどんどん悪くなっている」どちらだと思いますか？世界で極度の貧困にある人の割合は、過去 20 年でどうなったと思いますか？乳幼児の死亡率は？HIV の感染者は？大気汚染の状況は？災害による死者数は？これらの回答は、この本にあります。

科学やデータのサポートを受けていない誤解が、知らず知らずのうちにあなたにしみついていませんか？私の授業で、ある問題で「経済成長と格差の緩和は同時に達成できない」という文章を正しいと答えた学生がたくさんいたことに、私は大変驚きました（教科書のどこにもそんなことは書かれていなかったのに）。

学問的にはサポートされないような情報を信じ込まないためのリテラシーを、ぜひ大学生の間に身につけてください。そのためには様々な角度からたくさんの学びが必要になります。この本はその第一歩になるでしょう。

自己紹介文

江上 弘幸（えがみ ひろゆき）

みなさんは、経済学というと GDP とかマイナス金利といった言葉を連想するかもしれません。そういった「典型的な」経済学からは少し遠い実証研究が、私の専門です。そんな私が好きな本の一部を紹介しました。

「私のおすすめ本」

武藤誠 助教
(マクロ経済学)

『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』伊藤公一朗著

光文社 2017 年

この本では、データ分析の入門から上級までの内容が扱われており、特にデータ分析から導かれる因果関係について分かりやすい解説がなされています。著者はシカゴ大学で、環境経済学や応用計量経済学を担当されている先生です。統計の教科書とは違い、数式はほとんど使われず、事例や図で直観的に理解できるような説明がされており、データ分析の入門書としても読みやすい内容だと思います。

私は研究でデータ分析を用いており、大学生の頃からデータ分析について学ぶ機会がたくさんありました。当時、データ分析に関する理論や手法の知識は増えていきましたが、いざ、実際の問題に対してデータ分析を適用しようとすると、なかなか上手くいかなかった記憶があります。今考えると、分析結果を正しく読み解くために必要な知識や、理論を現実の問題に適用するための柔軟性が不足していたのだと思います。

この本では、実際の現場におけるデータ分析の活用やそれに伴う問題が、様々な興味深い事例と共に紹介されています。このような知識は、上述したようなデータ分析の理論と実践の間のギャップを埋めるのに役立つと考えられます。

経済学部では統計学や計量経済学など、データ分析に関連する授業はたくさんありますので、現在学ばれている方も多いかと思います。私と同じように実際の問題にデータ分析を適用する段階で躓いている方には是非おすすめしたい本です。データ分析を現実の問題に対して活用するためにはどうすべきかを学ぶ助けになるとと思います。

『将棋 AI で学ぶディープラーニング』山岡忠夫著

マイナビ出版 2018 年

近年における AI 技術の隆盛によって、様々な場所で AI が活用されている事例を見聞きするようになりました。皆様の中にも AI、ひいては機械学習やディープラーニングについて勉強をしている方や、実際に分析を行った経験のある方も多いのではないのでしょうか。また、このような手法を使った研究は年々増加しており、例えば、株価の予測や為替レートの予測などに機械学習やディープラーニングを適用した事例があります。

私がこれらの技術に興味を持ったのは、数年前に行われた将棋 AI とプロ棋士の対局を観戦したことがきっかけです。数十万局の対局を学習させ、1 秒間に何億手も読む将棋 AI の技術の高さに驚いたとともに、その AI と互角に対戦ができるプロ棋士を見て、改めて人間の能力の高さを感じたことを覚えています。

本書では、そのような将棋 AI の仕組みが詳細に解説されており、加えて、ディープラーニングの技術についても学ぶことができます。著者は「dlshogi」というディープラーニングを使った将棋 AI の開発者です。本書で紹介されている将棋 AI は、画像の分類を行う技術が応用されており、局面を画像として捉えて、その画像を数万局学習させることで次に指すべき手を予測させています。

この本で学ぶことのできる将棋 AI やディープラーニングの技術は、将棋だけではなく、他の様々な問題にも適用できるものだと思います。機械学習やディープラーニングに興味がある方は、具体的な適用事例として、本書で将棋 AI の技術を学んでみるのも良いのではないかと思います。

自己紹介文

武藤 誠（むとう まこと）

2021 年から日大で教員をしております。担当は景気循環論とマクロ経済学です。データ分析に関する本が好きでよく読んでおります。最近は機械学習と脳科学に興味があり、関連する本を購入しています。

沖縄で考えさせられた本

脇本利紀 教授
(租税法)

私は元国家公務員ですが、2017年（平成29年）7月から2年間、沖縄県那覇市に所在する沖縄国税事務所で勤務しました。初めての沖縄勤務であり、立場上、沖縄県内の自治体幹部、関係団体、泡盛業界、マスコミ関係者など地元の皆さんにお会いする機会が想定されていましたので、大急ぎで沖縄に関する本を読んだのですが、その中から印象深い2冊をご紹介します。

①野里 洋「汚名 第二十六代沖縄県知事泉守紀」（講談社、1993年12月）

②田村洋三「**沖縄の島守** 内務官僚かく戦えり」（中央公論社、2003年4月）

戦前の知事は「官選知事」であり、政府が任命し、おおむね内務省の高級官吏が任命されていました。②は沖縄県の最後の官選知事である島田勲氏について、①はその前任者の泉守紀氏を描いたものです。

両名はともに東京帝国大学を卒業し、高等文官試験に合格して内務省に採用となった超エリートですが、後世の評価は対照的なようです。軍に非協力で慰安所設置に反対する一方、疎開に消極的で、みずからの猟官活動のためたびたび長期間沖縄を留守にし、米軍の沖縄侵攻の直前に異動となった泉氏。沖縄侵攻が現実視される中で沖縄に赴任し、住民の疎開に全力を尽くし、在任わずか5か月で戦死した島田氏。泉氏の行動を非難し、島田氏のそれを賛辞することは容易ですが、私がもしその立場であったならどのように考え判断するだろうかと思き換えてみると、正直に言って答えを見出せませんでした。特に島田氏は沖縄への赴任を断るという選択肢もあったわけですので、「立身出世」だけを考えたなら断るのが自然でしょうし、断ったとしても特段非難されるものではなかったと思います。誰かが行かなくてはならないとお考えになったようですが、赴任すると決断したことはやはり尋常でないと思います。最後は公務員としての使命に基づいて決断されたのでしょうか。同じ公務員として、もちろん時代も地位も立場も全く異なりますが、もしその立場だったら私にはそれほど使命感や覚悟があるのだろうかと思きさせられました。

在任中、国税事務所の部内広報誌（「国税おきなわ」）をみていたら、昭和49年8月1日号に「島田知事とのめぐり会い」という沖縄税務署の城間正祐氏（当時）の投稿を見つけま

した。その中に「いよいよ最後の地となった旧真壁村伊敷部落外れにあるトントガマという大きな自然壕に私たちはいた。そこへ島田知事は、六月十日頃来られたので、最年少の私が知事の一切の面倒を見ることとなった。当時、知事はアメーバ赤痢に罹り大分弱っていたが、幸い三、四日位で元気を回復され、私もやれやれと一安心しているところへ将校伝令が下士官一人を伴ってきた。「閣下、牛島司令官の命により参りました。閣下をお伴するようにとのことでするので、お伴させて戴きます。」という島田知事は予期した如く、直ちに国防服に着換え、夜陰に消えて行かれた。(六月十九日の夜九時頃と記憶している)そして、再び帰らぬ客になったのである。」というものでした。

②を読むと、島田知事が壕を出たのを「はっきり確定できなくて申し訳ありませんが、確か六月二十五日か二十六日の午前零時前でした」との証言が引用されています。確たることは申し上げる立場にありませんが、島守の最後は杳として知れないことは確かなのでしょう。

島田知事が兵庫県のご出身であったことが、戦後、沖縄県と兵庫県とが深い交流を続ける契機となります。私は、戦後 72 年を経て沖縄に赴任したわけですが、国税用務で地元関係各位にお会いする際に私の出身が兵庫県であることを告げると、「島田知事は兵庫県のご出身でしたね」、「島守之塔をご覧になると良いですよ」(戦没県職員を合祀する碑)、「奥武山公園には島田勲氏顕彰碑があります」、「高校野球では兵庫県にお世話になりました」、「兵庫県は有愛県なんですよ」といった反応が返ってきました。偶然、私自身が兵庫県出身であることで島田知事存在の大きさをあらためて実感することとなりました。

①は現在、入手困難で読むことは難しいと思いますが、②は文庫(中公文庫)になっています。②のもう一人の主人公である荒井退造警察部長の生き方とともに時代背景は全く異なりますが、それでもなお公務とは何か、使命とは何か、ということを考えることができるのではないかと思います。

自己紹介文

脇本 利紀(わきもと としき)

租税法を担当しています脇本です。私は、元国家公務員で、国税庁、国税局などで国税事務の執行に従事してきました。様々な個別事案に接する機会があり、税についてはいろいろ考える機会が多かったと思います。

令和3年度のまとめ

○開館日数・時間・入館者・貸出数

	令和3年度 (2021)	令和2年度 (2020)	令和元年度 (2019)	平成30年度 (2018)
開館日数	268 日	225 日	269 日	274 日
開館時間数	2,639 時間 15 分	2,108 時間 50 分	2,865 時間 50 分	2,896 時間 55 分
入館者数	14,454 人	7,339 人	231,577 人	228,715 人
(1 日 平 均)	53.9 人	32.6 人	860.9 人	834.7 人
(1 時間平均)	5.5 人	3.5 人	80.8 人	78.95 人
貸出冊数	3,866 冊	3,417 冊	12,153 冊	12,528 冊
(郵送貸出冊数)	(83 冊)	(79 冊)		

○新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応とサービスについて

・開館日程の変更

期間	開館	開館時間	緊急事態宣言	ガイドライン
4/1～4/8	通常開館	月-金:8:55-18:00 土 :8:55-16:55	緊急事態宣言 (4/25～6/20) (7/12～9/30)	(4/1～10/27) 令和3年度 図書館の入館について(第1版)
4/9-4/12	通常開館	月-金:8:55-21:00 土 :8:55-16:55		
4/13～7/22	月-金:短縮開館 土:通常開館	月-金:8:55-19:00 土 :8:55-16:55		
7/23～9/12 (夏季休暇期間)	通常開館	平日:10:00-18:00 ※8/10～8/11:休館		
9/13～9/30	短縮開館	月-金:8:55-19:00 土 :8:55-16:55		
10/1～12/25	通常開館	月-金:8:55-21:00 土 :8:55-16:55		(10/28～3/31) 令和3年度 図書館の入館について(第2版)
12/26～1/23	通常開館	月-金:8:55-21:00 土 :8:55-16:55 ※12/26～1/10:休館		
1/24～3/31 (春季休暇期間)	通常開館	平日:9:00-18:00 土:9:00-16:00		

・利用対象者・人数・時間・施設の利用制限等

期間	利用対象者	人数制限・時間制限	備考
4/1～10/27	経済学部学生 経済学部研究科学生 経済学部教職員 通信教育部学生	なし	ラーニングcommons(最大4名)とグループスタディ ルーム(最大8名)の人数制限 個人利用時の会話禁止 席数を通常にの約半分に制限
10/28～3/31	経済学部学生 法学部学生 経済学部研究科学生 法学研究科・新聞研究科・ 法務研究科大学院生 経済学部教職員 法学部教職員 通信教育部学生	なし	ラーニングcommons(最大4名)とグループスタディ ルーム(最大8名)の人数制限 個人利用時の会話禁止 席数を通常にの約半分に制限

・「日本大学健康観察システム」の利用と「自宅待機解除基準について(令和2年6月8日公開)」
の準拠。

・厚生労働省公式「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」のインストールの推奨。

・マスクの着用。

・入館時の手指消毒と備品使用後の消毒。

・図書館カウンターとラーニングcommonsボックス席にアクリル板等による仕切りの設置。

・卒業・修士・学位論文等の研究支援の一環として図書の郵送貸出(43件83冊)

期間	対象者	貸出冊数	貸出期間	文献複写の送付	文書
4/7～3/31	経済学部学生 経済学研究科学生	5冊	学部学生:1か月 大学院生:3か月	不可	令和3年度 図書の郵送によ る貸出について

・特別措置によるデジタルコンテンツの学外利用

デジタルコンテンツ名	期間	対象者	内容	備考
聞蔵Ⅱ	4～3月	経済学部学生・専任教職員 経済学研究科学生	MyOPAC 経由で学外利用可	
日経テレコン	4～3月	経済学部学生・専任教職員 経済学研究科学生	MyOPAC 経由で学外利用可	
ヨミダス歴史館	4～9月	経済学部学生・専任教職員 経済学研究科学生	MyOPAC 経由で学外利用可	
毎索	4～9月	経済学部学生・専任教職員 経済学研究科学生	MyOPAC 経由で学外利用可	

デジタルコンテンツ名	期間	対象者	内容	備考
東洋経済デジタルコンテンツ ライブラリー	4～3月	経済学部学生・教職員 経済学研究科学生	MyOPAC 経由で学外利用可	
日経 BP 記事検索サービス	4～3月	経済学部学生・専任教職員 経済学研究科学生	MyOPAC 経由で学外利用可	
eol	4～3月	経済学部学生・教職員 経済学研究科学生	MyOPAC 経由で学外利用可	
Margent Online	4～3月	経済学部学生・専任教職員 経済学研究科学生	MyOPAC 経由で学外利用可	
Magazine Plus	4～6月	経済学部学生・専任教職員 経済学研究科学生	MyOPAC 経由で学外利用可	
NEEDS Financial QUEST	4～3月	経済学部学生・教職員 経済学研究科学生	申請により学外利用可	
Wall Street Journal	4～3月	経済学部学生・教職員 経済学研究科学生	学外から利用登録可	

○図書館ガイダンス・図書館見学ツアーの開催

- ・自主創造 A の教材として、図書館ガイダンスの電子コンテンツを提供した。
- ・1・2 年生向けの図書館見学ツアーを 4 月 4 日(月)～4 月 8 日(木)の 4 日間開催し、77 名が参加した。
- ・4 月 9 日（金）以降は、図書館案内を希望する学生に対して個別対応の図書館見学ツアーを開催し、3 月 31 日(木)までに 45 名が参加した。

以 上

令和3年度 図書館の入館について（第1版）

令和3年4月1日

「令和3年度 図書館の入館について（第1版）」を策定いたしましたので、下記のとおり御利用いただきたく御協力のほどよろしくお願いいたします。

記

1 図書館入館の際には、以下のことを遵守してください。

- ① 入館者は日本大学経済学部及び大学院経済学研究科に在籍している学生及び教職員、日本大学通信教育部に在籍している学生に限定いたします。それ以外の方は利用を御遠慮願います。
- ② 日本大学経済学部ホームページに掲載の「日本大学健康観察システム」の利用及び自宅待機・解除の基準について（令和2年6月8日公開）を準拠できない場合は、入館できません。
また、厚生労働省公式アプリ「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」のインストールをお願いいたします。
- ③ マスクを必ず着用し、館内ではマスクを外さないでください。
※マスクの配布は行いません。各自で事前に御準備ください。
- ④ 入館する際には、必ず手指消毒をしてください。
- ⑤ 退館する際には、利用した席の消毒をしてください。
- ⑥ 図書館内での会話はグループスタディールーム、地下1階ラーニングコモンズを除き、厳禁です。
- ⑦ 他の利用者との距離（2m以上）を十分に保ってください。
- ⑧ 図書館内では図書館スタッフの指示に従ってください。
- ⑨ 利用者については、その滞在時間等を記録いたします。
※ 上記のことが遵守できない利用者は、退館していただきます。

2 運用開始日

令和3年4月1日（木）

3 通常開館時間

平日 8:55～21:00

土曜日 8:55～16:55

※変更の場合は、図書館ホームページでお知らせします。

4 入館制限等について

入館者数及び利用時間の制限はありません。

※経済学部の方針、今後の社会情勢及び図書館の利用状況等により、随時、見直すことがあります。

- ① 地下書庫所蔵資料の利用については、図書館カウンターに御相談ください。なお、緊急事態宣言が発令された場合は、ラーニングコモンズ(地下1階)及びグループスタディールームを利用できません。
- ② 書架から取り出した資料は、書架に戻さずに返本台に置いてください。
- ③ 入退館は1階のみになります。
- ④ 貸出図書の返却目的のみで来館した利用者は、3号館入口（閉館時は3号館裏の通用口）の図書返却ポストを御利用ください。

以上

令和3年度 図書館の入館について（第2版）

令和3年10月28日

令和3年4月7日付け「令和3年度 図書館の入館について（第1版）」を改正し、「令和3年度 図書館の入館について（第2版）」を策定いたしましたので、下記のとおり御利用いただきたく御協力のほどよろしくお願いいたします。

記

1 図書館入館の際には、以下のことを遵守してください。

- ① 入館者は日本大学経済学部及び大学院経済学研究科に在籍している学生及び教職員、日本大学法学部及び大学院（法学研究科，新聞学研究科，法務研究科）に在籍している学生及び法学部教職員、日本大学通信教育部に在籍している学生に限定いたします。それ以外の方は利用を御遠慮願います。
- ② 日本大学経済学部ホームページに掲載の「日本大学健康観察システム」の利用及び自宅待機・解除の基準について（令和2年6月8日公開）を準拠できない場合は、入館できません。
また、厚生労働省公式アプリ「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」のインストールをお願いいたします。
- ③ マスクを必ず着用し、館内ではマスクを外さないでください。
※マスクの配布は行いません。各自で事前に御準備ください。
- ④ 入館する際には、必ず手指消毒をしてください。
- ⑤ 退館する際には、利用した席の消毒をしてください。
- ⑥ 図書館内での会話はグループスタディールーム，地下1階ラーニングコモンズを除き、厳禁です。
- ⑦ 他の利用者との距離（2m以上）を十分に保ってください。
- ⑧ 図書館内では図書館スタッフの指示に従ってください。
- ⑨ 利用者については、その滞在時間等を記録いたします。
※上記のことが遵守できない利用者は、退館していただきます。

2 運用開始日 令和3年10月28日（木）

3 通常開館時間 平日 8：55～21：00 土曜日 8：55～16：55 ※変更の場合は、図書館ホームページでお知らせします。

- #### 4 入館制限等について
- 入館者数及び利用時間の制限はありません。
※経済学部の方針，今後の社会情勢及び図書館の利用状況等により，随時，見直すことがあります。
- ① 地下書庫所蔵資料の利用については、図書館カウンターに御相談ください。なお、緊急事態宣言が発令された場合は、ラーニングコモンズ(地下1階)及びグループスタディールームを利用できません。
 - ② 書架から取り出した資料は、書架に戻さずに返本台に置いてください。
 - ③ 入退館は1階のみになります。
 - ④ 貸出図書の返却目的のみで来館した利用者は、3号館入口（閉館時は3号館裏の通用口）の図書返却ポストを御利用ください。

以 上

令和3年度 図書の郵送による貸出について

学部生及び大学院生の卒業・修士・学位論文等に対する研究支援の一環として、当面は下記のとおり実施いたします。

記

- 1 提 供 内 容 図書館（分館）所蔵図書の郵送による貸出
- 2 対 象 者 日本大学経済学部及び大学院経済学研究科に在籍する者
 - ① 経済学部1年生～4年生
 - ② 大学院経済学研究科（博士前期・後期課程）
- 3 開 始 日 令和3年4月7日（水）
- 4 申 請 先 図書館カウンター：library2.eco@nihon-u.ac.jp
対応時間は平日（月曜日～金曜日）の10：00～16：00となります。
- 5 申 請 方 法 別記のとおりとします。
- 6 個人情報の取扱い 収集した個人情報については、本対応以外に使用することはありません。なお、個人情報保護については、「日本大学における個人情報の取扱いに関するガイドライン」に基づいて管理します。
<https://www.eco.nihon-u.ac.jp/sitepolicy/policy/>
- 7 備 考 不明な点等がありましたら、図書館カウンターまでお問い合わせください。

以 上

別記 図書の郵送による貸出

- (1) 貸出冊数と期間については以下のとおりです。

貸出冊数 5冊まで ※特別対応のため、通常貸出とは貸出冊数が異なります。

貸出期間 学部生：1ヶ月、大学院生：3ヶ月（貸出延長は通常通り手続きしてください）

- (2) OPAC で図書館（日本大学図書館経済学部分館）所蔵確認をする。

※一部貸出不可の図書があります。（参考図書、指定図書、製本雑誌等）

- (3) 所蔵確認が取れた図書を、図書館カウンターにメール（メール送信フォーム「図書の貸出郵送申請フォーム」のとおり作成）で送信して下さい。電話などメール以外の手段での申請については受付できません。なお申請はメール受信の順番で対応します。

※申請した図書が貸出不可の場合は、図書館から NU-Gmail アドレスに連絡します。

- (4) 貸出時の郵送料については図書館が負担します。

- (5) 返却は、貸出図書の到着日から、貸出期間内に図書館カウンターに持参して下さい。

なお、郵送にて返却を希望される際には、図書館カウンターに事前連絡し、図書を梱包し、ゆうパックで返却して下さい。（送料は御自身で負担して下さい。）

返却が期限内に困難な場合は、事前に図書館カウンターにメールにて相談して下さい。

「図書の郵送貸出申請フォーム」

タイトル（件名）：図書の郵送貸出申請
本文： ①氏名_ ②学科_ ③学生番号_ ④郵送先郵便番号_ ⑤郵送先住所_ ※マンション、アパート等名称と部屋番号まで正確に記載して下さい。 ⑥NU-Gmail アドレス_@g.nihon-u.ac.jp ⑦貸出希望図書情報（希望する冊数分記載して下さい。）_ - 1 冊目 - (1)書名（図書のタイトル） (2)資料番号 (3)請求記号 (4)配架場所（○階） - 2 冊目以降同様に 5 冊まで～

